

平成18年度 和歌山県名匠

【^{せい}製^{ちゃ}茶^て(^て手^もも^みみ^{ちゃ}茶)】

^{うえ}上^{むら}村^{まこと}誠

【現住所】白浜町

【生 年】昭和24年

業績及び経歴

昭和42年に高校を卒業後、茶栽培及び製茶技術を習得するため、静岡県榛原町(現:牧ノ原市)の茶専業農家において研修指導を受け、以来39年にわたり茶業に携わっている。

1年半の研修後は郷里の日置川町川添地域(現:白浜町市鹿野)において地域特有の気象条件を活かした「川添茶」の栽培を農業経営の中心に据えて、その品質向上のため、製茶技術の研究と改良に精力を注ぎ続けている。

特に手もみ製茶技術については、平成10年に全国手もみ茶振興会より「師範」に認定されるなど、その高い技術力が認められており、川添地域の製茶技術をリードする存在といえる。

また、昭和49年より現在に至り会長を務める「川添緑茶研究会」では、茶栽培技術及び経営の向上に取り組む一方、全国手もみ茶品評会において平成8年から平成15年までの8年連続で上位入賞を果たすなど、零細な産地でありながら製茶技術にかけては全国でも高い評価を得ている。

日本有数の茶産地である静岡県の市場の中でも、高品質の川添茶は人気が高く、平成16年と平成17年の世界緑茶協会主催O-CHAフロンティアコンテストでは、氏の出品した茶が連続して金賞を受賞している。

平成8年に和歌山県の地域興しマイスターに、平成11年に和歌山県指導農業士に、平成17年には財団法人日本特産農産物協会の地域特産物マイスターに認定される。また、平成12年には和歌山県知事表彰を受賞している。氏は、地場産業の育成には欠かせない人材であり、後進の指導育成に尽力するなど、その功績は大きい。